

Title	人稱との関連からみるテイル形の特徴・ムード : 談話レベル・新聞記事での考察を通して
Author(s)	澤西, 稔子
Citation	日本語・日本文化. 30 P.21-P.40
Issue Date	2004-03
Text Version	publisher
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/7443">https://doi.org/10.18910/7443</a>
DOI	10.18910/7443
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

<研究論文>

## 人称との関連からみるテイル形の特性・ムード

— 談話レベル・新聞記事での考察を通して —

澤西 稔子

### 1. はじめに

工藤 (1995) は動詞分類の際、まずアスペクト対立の有無で

<外的運動動詞>   アスペクト対立   有

<静態動詞>       アスペクト対立   無

の分類を立てている。

そしてこの2分類に収めきれない「思考・感情・知覚・感覚」を表す動詞群「思う・考える・信じる・心配する・驚く・感じる・見える・疲れる」などはアスペクト対立が人称性とからみあってくることなどから、これらの動詞群をアスペクト対立の部分的変容という観点から、

<内的情態動詞>   アスペクトの部分的変容

と分類している。そして『このようなことは外的運動動詞には起こらない。外的事象であれば、人称性に関わりなく、スルーシテイルは時間的においてのみ対立するのである。』としている。

しかし談話レベルでは <外的運動動詞> でも時間的というより人称によってスルーシテイルの対立が起こるといふ現象が見られる。ここではこれらの現象に着目し、アスペクト的意味（動作、結果の継続）を踏まえつつも、これらの現象を通しテイル形の特性をあぶり出し、更にテイル形の持つムードについても考察していきたいと思う。

### 2. 人称との関連からみるテイル形の特性

談話レベルでは、小説等のテキストとは違い、動作・作用を表す動詞、感情形

容詞やそれに関連する動詞群においても、アスペクト意味に関係なく、基本的には一人称、二人称にはル形、タ形が、三人称にはテイル形が選ばれるという現象が見られる。まずこれらの現象を具体的に考察し、そこからテイル形が持つ特質とは何かを考えてみたい。

### 2.1.1 動作・作用をあらわす動詞のタ形・ル形<sup>1)</sup>

例えば昨日の自分自身の行動を尋ねられる(た)場合、

- (1) 昨日の午後、何を していましたか／何をしましたか？
- (2) 部屋で 仕事しました／していましたよ。
- (3) 本を 読みました／読んでいましたよ。
- (4) 3時ごろここでお茶を 飲みました／飲んでいましたよ。

と一人称(二人称)ではタ形もテイタ形も可能であるが、第3者の行動を尋ねられた場合、その返答として

- (5) 彼はずっと仕事していましたよ。
- (6) 彼は本を読んでいましたよ。
- (7) 3時ごろここでお茶を飲んでいましたよ。
- (8) ここで模型を作っていましたよ。

とアスペクトに関係なく、三人称の場合、タ形ではなくテイタ形を使って答えるのが自然なのではないだろうか。須田(2000)は限界動詞と無限界動詞という動詞分類と完成相と継続相との相関について検討しているが、この種の動詞の場合、その動詞が限界という要素を内在している、いないに関わらず、又その動詞の持つ限界性を十分認識し、その場でその動作が完了したことを認識していても、三人称つまり第三者の行動を描写する際にはタ形を使わず、テイタ表現を使う傾向があるのではないか。しかし

- (9) 彼は部屋で本を読んでいましたが、その後どこかへ行きましたよ。
- (10) 友達と話していましたが、その後一緒に出て行きましたよ。

「行く」「出て行く」「来る」などのように第三者の変化が明らかなもの、例えば第三者の存在が話し手の視界から完全に消え去ってしまう、あるいは出現するなどの事実を認識した場合、タ形を使っているのではないか。

このことは完了のタ形にも同様のことが言える。

例えば

- (11) 風邪はもう治りましたか？  
 (12) あの映画はもう見ましたか？

に対して

- (13) はい、もう治りました／治っています。  
 (14) はい、見ました。

と一人称（二人称）の場合、タ形がもっとも自然である。

しかし第三者に関しては

- (15) Q: 山田さんはもう来ましたか。A: はい、来ました／来ています。

テイル形のほうがより自然ではないだろうか。

又ル形の場合も

- (16) Q: 明日はどこに行きますか？ A: 東京に行きます。

のように基本的には話し手自身のこと（一人称、二人称）に使い

- (17) 彼はいつも3時ごろお茶を飲みます。  
 (18) 明日彼は東京に行きます。

のように、話し手が第三者の習慣を知っている場合や、話し手が第三者の予定を把握している立場にある時には第三者の行動にも使えるが、もしそうでなければ、話し手による単なる予言といったものになってしまい、やはり第三者には不適な表現である。

### 2.1.2 動作・作用をあらわす動詞のテイル形

ではテイル形はどんな時に使われているのか、基本的なことだがここでもう一度見ておきたい。

例えば部屋の中に男性がいるとする。そしてまずその部屋を話し手がどこからか眺め、聞き手対し描写するとする。

「汚いですね。」「かなりちらかっています。」「窓は閉まっていますね。」

「テレビがついていますね。」「テレビの上になにかのっていますね。」

などの表現が考えられるであろう。

次に男性の行動を順次描写していく場合

「テレビを見ています。」→「あ、立ち上がりました。」→「電話をかけています。」→「ずっと話してますね。」→「電話を切って、テレビの前に又座りました。」→「じっとしています。」→「寝転びました。」→「寝ているようです。」→「起き上がって台所に行きました。」→「何か作り始めました。」→「何か作っています。」

静物の場合はそれを表現する属性形容詞があればそれを使い、適当なものがない場合、その発話時の話し手が把握している状態を客観的に描写するためにテイル形が使われる。

そして男性（生物）の行動を描写する場合、男性の行為がすぐに完了する性質のものであればタ形で描写するが、一旦その男性が「同じ動作・状況の中に入っている」場合、そのことを客観的に描写する際にテイル形が使われると言える。この対象物（者）の「同じ動作・状況の中にある」ということが、動作・作用を表す動詞の場合においては、継続・結果の継続というアスペクト意味としてとらえられるのであろう。いずれにしてもテイル形は対象物（者）の状況・状態を客観的に描写する際の表現だと言える。

テイル形が一人称（二人称）において使われる場合も

(19) Q: 何してるの? A: ちょっと散らかってるから、整理してる。  
のように話し手の置かれている状況・状態を、話し手自身が客観的に描写、提示し聞き手に伝える表現だと言える。

## 2.2.1 感情形容詞、感情や心理・生理的な状態を表す動詞のル形・タ形

感情形容詞の場合

(20) 試合に負けて悔しい。

のようにル形は話し手の発話時の心情を表し、又「疲れる・くたびれる・（お腹が）すく」「痛む・しびれる・うずく」「困る・あきれる・がっかりする・ほっとする・いらいらする・はらはらする・うんざりする・ぞっとする」等の動詞の場合、ル形で（タ形、あるいはどちらの形でも、）その発話時点での話し手の生理的・心理的状态を表明できる。

(21) あ、疲れた。／疲れる。

- (22) 困るな。／困ったな。  
 (23) あの声を聞くといらいらするな。  
 (24) 歯がうずく。  
 (25) 家に帰ってくるとほっとするわ。

これらの表現は自分自身の内面を描写するというより、発話時の話し手の内面を直接的に表出、吐露しているといった表現であり、聞き手の存在を意識した表現ではなく、場合によっては独白とも受け取れるものである。

- (26) 昨日は皆出かけてしまったので寂しかったよ。  
 (27) 昨日はさすがの私も疲れましたよ。

タ形で過去の時点での話し手の心情を表現することもできる。しかしこのル形、タ形は談話レベルではやはり一人称・二人称のみに対応した表現であり、三人称には不適である<sup>2)</sup>。

### 2.2.2 感情形容詞、感情や心理・生理的な状態を表す動詞のテイル形

三人称の場合は感情形容詞が使えず

- (28) 彼は試合に負けて悔しがっている／悔しがっていた

「形容詞語幹+がっている」のテイル、テイタ形、あるいは更に客観化が進んだ次のような「感情的な態度の状態を表す動詞群+ている」と、やはりテイル、テイタ形で表現される。

- うれしい→うれしがる→喜ぶ おもしろい・楽しい→おもしろがる→楽しむ  
 悲しい→悲しがる→悲しむ 怖い→怖がる→怯える・恐れる  
 痛い→痛がる→苦しむ 苦しい→苦しがる→苦しむ  
 悔しい→悔しがる→嘆く 懐かしい→懐かしがる→懐かしむ

- (29) 彼は今回のことを大変嘆いていました。  
 (30) 彼はその知らせを非常に喜んでいます。

又「疲れる・くたびれる・(お腹が)すく」「痛む・しびれる・うずく」「困る・あきれる・がっかりする・ほっとする・いらいらする・はらはらする・うんざりする・ぞっとする」等の動詞の場合、第三者の感情、生理、心理的な状態を話し手がある程度把握できる場合は、

(31) 彼はその知らせを聞いてがっかりしていました。

(32) 彼は何かいらいらしていますね。

のように第三者の様子をテイル、テイタ形を使うことによって客観的に描写できる<sup>3)</sup>。他者を意識した場面では

(33) 疲れたから／疲れてるから、先に寝るわ。

(34) ちょっと 困った／困っているから、助けてくれない？

と話し手自身の状況を表す時にはタ形でもテイル形表現も使うことができるが、テイル形のほうが話し手自身の生理的・心理的状況を客観的に聞き手に提示、報告しているというニュアンス、ムードが加わり、次の一人称の例なども動作・作用を表す動詞の場合と同様に、話し手の置かれている精神的状況・状態を話し手自身が、客観的に描写、提示し聞き手に伝える表現だと言える。

(35) 楽しんでます。

(36) あの当時は非常に外の世界と接触するのを恐れていました。

(37) 外国人と話して、英語が話せることをただ単に喜んでいました。

### 2.3 特性や関係あるいは物や人に対する評価を表す動詞の場合

「そびえている・込み入っている・似ている・すぐれている・ひいでている・ばかげている・ありふれている・入り組んでいる」といった特性や関係あるいは物や人に対する評価を表す動詞群はアスペクト的対立を持たず基本的にテイル形をとり、又対象物(者)の性質などを表現する「さっぱり・あさっり・おっとり・ねちねち・ちゃっかり」ような副詞と結びついて物や人に対する評価(印象)を表す「おっとりしている」といったテイル表現や、「花子は美しい手をしている」といった対象者(物)の根源的屬性<sup>4)</sup>を表現するテイル表現などは金田一(1950)が「第四種」としたものであるが、寺村(1984)では「形容詞的動詞」として「長い間」などの時間の幅を表す副詞とは共起しないことから、アスペクト的対立のない形容詞的表現とされているが、これらの表現もやはり基本的には発話時の対象物(者)の状態を客観的に描写したものであり、三人称で使用される。

これらの表現をそれに対応すると思われる名詞述語、形容詞述語と比較してみると名詞述語、形容詞述語はより直截的な描写と言え、一方テイル形表現のほう

はより対象物(者)の状態を客観的に活写した表現になっていると言えるのではないだろうか。

優れている⇨優秀だ                      しっかりしている⇨堅実だ  
 ありふれている⇨平凡だ                しゃれている⇨おしゃれた  
 しみわたっている⇨けちだ            似ている・似通っている⇨そっくりだ  
 大人びている⇨大人っぽい            込み入っている・入り組んでいる⇨複雑だ  
 花子は美しい手をしている。⇨花子の手は美しい。

太郎は優しい性格をしている。⇨太郎は優しい。

又これらの表現を話し手が(二人称も可能)自分自身の性格なりについてこの表現を使う場合もあるが、この場合もやはり自分の状態を客観的に提示、描写しているといったムードが出てくるのではないだろうか。

(38) 私はあさっさりしています。

(39) 大きな手をしてるでしょ。

## 2.4 テイル形の特質

以上見てきたように談話レベルでは、動作・作用を表す動詞も、感情や心理・生理的な状態を表す動詞、感情形容詞においてもル形・タ形は基本的に一人称・二人称にのみ使える主観的な用言であり、三人称においては、基本的にテイル形が使われ、テイル形はその対象物(者)の置かれている状況・状態なりを話し手が、客観的に描写、提示し、聞き手に伝える表現形式だと思われる。この三人称で使われるということは、本質的にテイル表現にはアスペクトの意味以外に《客観性》という特性があるということを示しているのではないだろうか。

## 3. テイル形のムード

そして(35)(36)(37)(38)(39)の例が示すように、テイル形はその本質である《客観性》という特性を、状況によってはムードとして表出できる形式であるとも言える。ここではそのムードを感じさせるテイル表現についてみていきたい。



### 3.1 思考を表す動詞のテイル形のムード

「思う」のような思考動詞の場合、ル形で話し手の発話時点での思考を表現するが、一人称・二人称の表現として「思っている」も多用される。

一般的にこの表現の違いは日本語教育の現場では、アスペクト的意味に基づいた次のような解釈のもとに指導されているのではないかと。

「わたしはそうおもいます」と「わたしはそうおもっています」どちらの文も話し手の現在の気持ちをのべています。それほどおおきな違いはないのですが「ここ数日」「しばらくまえから」のように一定の期間がしめされるときは「おもっています」になるのがふつうです。「おもいます」は単に現在の思考をのべたもの、「おもっています」は一定期間思考がつづいていることをのべたものというちがいがあられるわけです。

確かに次のような場合上記の解説のようにアスペクト的観点から「思っている」のほうは不適だといえる。

(40) Q: 今日の人なんか変だと思わない?

(41) A: なんか変だと思ふ…○ なんか変だと思っている。…×

しかし寺村(1984)に、「思う」を過去や明示的な継続の形にすると、それが事実の客観的な報告という性格を帯びるといふことであり、基本形の表現はより主観的といふことができるという指摘があるように

(42) 法科大学院を受験しようと 思います／思っています。

(43) 小津安二郎はやはりすばらしい監督だと 思います／思っています。

これらのテイル表現からはアスペクト的時間の幅を示す以外に、話し手の意見を客観的に述べているのだという話し手のムードも同時に感じ取れる。そして次の例のような場合

(44) 彼、来るかな?

(45) 来ないと 思うよ／思ってるよ。

(46) あの二人離婚するかな?

(47) 離婚すると 思うよ／思ってるよ。

「思っている」表現はなにか個人的な特別な理由で、その出来事の実現を確信しているといったニュアンスが感じられ、更には次のようにその出来事の実現を「信

じている、念じている」といったニュアンスさえ感じられる場合もある。

(48) Q: 高橋はアテネに出場できるかな?

A: 出場できると思うよ/思ってるよ。

このような「思っている」表現に関して、宮崎 (1999) ではそれには信念や強い期待といったニュアンスが込められていることや、橋本 (2003) ではその思考の主体である「私」などが明示される場合が多いことが既に指摘されている。

つまり「思っている」のテイル形表現には「思う」とのアスペクト対立以外に、話し手の意見・考えを他者に対して客観的に表明しているという話し手のムードが込められていると言え、更には状況により話し手の強い信念、期待といった主張も込められる場合もあると言えるだろう。

(49) ご両親はあなたのことを一番大切に思っていますよ。

この場合の「思っている」は、表面上の主語は「ご両親」であるが、むしろ話し手が状況等を総合的に判断して、主観的な自分自身の主張を「ご両親」に成り代わって間接的に述べているといった表現であるとも言える。

### 3.2 開示・報告のムードを感じさせるテイル表現

テイル形には又、話し手が得た情報を発話時の時点で、開示・報告するというムードも見られる。

(50) Q: 山田さんの出発は結局いつになったんでしょうか。

A: 来月の10日になったと聞いていますよ。

(51) Q: 事故の直接の原因は何ですか。

A: ガス漏れによる爆発だと聞いております。

これらの表現を「聞きました」と比較してみると、やはりテイル表現からはアスペクトの意味以外に、聞き手に対し、話し手が持っている情報をできるだけ客観的に開示、報告しているという話し手のムードが感じられる<sup>6)</sup>。

これに類似したテイル表現には次のようなものがある。寺村 (1984) では「回顧的」とされ「過去の事実の意義・意味を考える心理の反映である点が特徴的である」とされる、犯罪捜査での聞き込みの報告や歴史的な認識等を示す場合のテイル形や

(52) やはり彼女はこのレストランで食事をしています。

(53) 長明は1212年に「方丈記」を書いています。

(54) ブッシュは2003年に日本を訪問しています。

例えば何かの支払請求や、家族の一員に動向についての質問でのテイル表現である。

(55) それはもうずいぶん前に払っていますよ。

(56) 先週の日曜日ですか？夫は先週の日曜日はゴルフに行ってますよ。

これらのテイル表現はアスペクトというより、テイル形の持つ《客観性》という特質が押し出された表現であり、発話時点での話し手の持つ次のような情報をできるだけ客観的に開示し、聞き手に対し報告している表現であり、それをムードとして押し出した表現であると思われる。

- 話し手自身が体験した事柄
- 話し手の直接的な経験ではないが、話し手が事実（発話時点では成立）と把握できている事柄
- 歴史的事実・世界の出来事・情報源がそのことを事実と確認できている情報など

#### 4. 新聞記事におけるテイル表現

以上、談話レベルでは典型的には、感情や心理・生理的な状態を表す動詞群、特性や関係あるいは物や人に対する評価を表す動詞群、そして動作・作用を表す動詞においても、三人称にはテイル形やテイタ形が選択されるという現象が見られ、そのことから、テイル形は基本的に三人称で使われる形であり、このことはアスペクト的意味以外に、テイル形には客観的に対象物（者）を描写、提示する《客観性》という特性があり、更にはそれをムードとしても表しうる場合があることについて考察してきた。

テキストにおいてはル形、タ形は工藤（1995）の『このようなことは外的運動動詞には起こらない。外的事象であれば、人称性に関わりなく、スルーシテイルは時間的においてのみ対立するのである。』という指摘のように談話での考察とは違った様相を見せるが、テイル形における《客観性》という特性はそこにも見ら

れるものであると思われる。そこで、次に言語の経済性からル形、タ形、テイル形、テイタ形の選択が効率的になされているのではという観点から新聞というテキストを取り上げ、これまでの考察を裏付けていきたいと思う。

#### 4.1 一般的な新聞記事

まず典型的、一般的な新聞記事として次の2003年3月18日の一面トップの記事を見ておきたい<sup>7)</sup>。

(57) ブッシュ大統領は17日午後8時(日本時間18日午前10時)、イラクに対する最後通告の緊急演説を行う。ベーカー米駐日大使が首相官邸を17日午後11時に訪れ、福田官房長官に明らかにした。米国は17日に開かれる国連安全保障理事会の協議で、対イラク武力行使容認の修正決議案を採択するのは困難と判断した模様だ。ブッシュ大統領は演説で、攻撃開始までの期限を数10時間に限定するとみられ、小泉純一郎首相は攻撃開始に向けた最後の努力を強く促す予定だ。

ベーカー大使は福田氏に、米英スペイン3カ国首脳会談の結果を報告。攻撃を視野に、「国際社会はイラクに関心を持っている。復興に際しては、安保理の動きを重視していく」という米政府の考え方を伝えた。福田氏は「安保理中心に復興を考える姿勢を評価したい」と答えた。

ブッシュ大統領は16日の英国、スペインとの3首脳会談で、安保理での外交努力を17日(米国時間)で打ち切ることで合意した。この3国は同日の安保理協議で各国の説得工作を続けるが、修正決議案は採択に必要な9カ国の賛成を得ておらず、しかもフランスなどは拒否権行使の構えを崩していない。

このため米政府は実質的に採択は極めて困難と判断し、17日夜の大統領演説でイラクに最後通告を行う方針を日本政府に伝えたものとみられる。

米国がイラクに与える大量破壊兵器廃棄の猶予期間は明らかではないが、米メディアは72時間程度と報じている。

時系列に沿った事の成り行きがル形、タ形、名詞止等で簡潔に書き分けられて

いる。そしてテイル形は「国際社会」「フランス」の現状を客観的に提示するために用いられている。記者の推測判断を示す場合は「みる」の受動態でより客観性を持たせた「みられる」が使われ、それぞれの表現がアスペクト的意味から見ても問題なく使用されていると言える好例と言える。

#### 4.2.1 署名記事におけるテイル表現のモード

しかし次のような署名入り記事におけるテイル形には、対象物（者）の客観的描写というだけでなく、そこに込められた筆者のモードを感じ取れるものが非常に多い。又逆にモードを感じ取れるテイル表現は署名入りの記事に限られているとも言える。この客観的な描写でありつつも、書き手の主張も込められているとみられるテイル表現を拾い集めていくと、すべて署名入りの記事中のものであるという事実は、《客観性》という特質を持つテイル形がそれをモードとして担いようことを示しており、談話レベルのテイル形の考察を裏付けるものと思われる。以下具体的に見ていきたい。

- (58) 武力があれば何でもできるという流れを、米英が作り上げようとしている。ブッシュ大統領が「最後通告」演説を行った18日は、「米国が国連を殺した日として記憶されるだろう。小泉純一郎首相は「新たな国連決議は必要ない」と米国を全面支持したが、では、何のために中間派6カ国への外国工作を行ったのか。首相は矛盾している。（中略）  
 これだけ世界を取り巻く情勢が変化しているのに、政府は一昔前の日米安保条約一辺倒の思考回路から抜け出せないのだろうか。  
 中東の人々の多くは、米国の狙いは大量破壊兵器の破棄ではなく、フセイン政権打倒と、それに続く中東の軍事的支配だと思っている。米国は一方でイスラエルの大量破壊兵器を放置している。小泉首相がいくら「戦争はイラクが大量破壊兵器を破棄するか否かにかかっている」と連呼してみても、嘲笑を誘うだけだろう。

具体的なイラクの脅威が不明のまま、米国は攻撃しようとしている。米国を無批判に支持する日本政府が専守防衛をなし崩しにし、平和憲法をひっくり返そうとしているように見えるのは、私だけだろうか<sup>8)</sup>。

- (59) 紛争介入にリスクは不可避だ。紛争下から現地で緊急人道援助にかかわることによって、迅速な戦後の復興や紛争調停・解決も可能となる。日本も平和のためには覚悟を要する時期を迎えている<sup>9)</sup>。

これらのテイル表現は、単にその時の意志的状况を客観的に読者に提示するというテイル形の基本的意味以上のニュアンス・ムードを感じさせる。「作り上げようとしている」「矛盾している」「攻撃しようとしている」には「米英」「小泉首相」「米国」に対する書き手の非難を、又「迎えている」からは「日本」に対して書き手が自覚を促しているといったニュアンスを感じ取ることができるのではないだろうか。客観的に状態を描写するテイル表現を使って事実関係を提示し、その中に書き手のメッセージを込めるといった手法は、悲惨な写真を展示し、そこから何かを訴えかけるという手法に類似したものであると思われる。

#### 4.2.2 署名記事における思考を表す動詞のテイル表現のムード

次に署名記事における思考を表す動詞の場合も見てみておきたい。

- (60) 同時テロとイラクのフセイン政権の関係は証明されていない。それでも、大多数の米国民は、将来のテロを防ぐために、いま、イラクを攻撃しないと、後悔すると思っている。逆にいえば、9・11事件が起きなければ、イラク戦争はこんなにも、問題にはならなかっただろう。今回の戦争は大量破壊兵器や中東石油の支配の問題だという人は多い。私は違うと思う。安全保障を根底から揺すぶられた米国民が進める「トラウマの戦争」というのが正しいと思っている<sup>10)</sup>。

最初の「思っている」の主語は「大多数の米国民」であるが、この「思っている」は(49)で述べたように、筆者の主観的な断定とも言えるものである。そして「正しいと思っている」からも、やはり筆者の強い主張、ムードを見て取れる。

これが署名入りではない一般の記事ではどうなっているかというところ

- (61) 橋本元首相は「現地の水と安全の状況を検討し、浄水場建設や水道管の修理などで、フォーラム事務局が専門家チームを派遣することを考えている」と述べた。
- (62) ところが今回のイラク戦争については、トルコ国会が3月1日、最大6

万2000人の米軍地上部隊の駐留要請を拒否し、米政府をうろたえさせた。「何らかの形でトルコの協力が得られるものと確信している」とパウエル米国務長官は18日まで、楽観的見通しを語っていたが、開戦後にトルコが認めたのは領空通過だけだった。

- (63) 首相は17日、官邸で記者団に「(米国を)支持している。今までの国連決議で(武力行使)は可能だと思う」と語っており、18日も攻撃をにらんだ米国支持の姿勢を最大限打ち出す。

のように直接引用の形が用いられたり、あるいは

- (64) 美田を残すため貯蓄に励むより、人生は食やレジャーで楽しみたい。自分にこだわる高齢者が今の六十代前半から生まれ始め、団塊世代を境に一気に広がるとみられている。
- (65) イラクが完全に治安を維持できる状況になるまで、まだ時間がかかると予想されている。
- (66) 今後新車販売失速など消費腰折れが懸念されている。

のように受動態+テイルの形が取られ、記者の主観と混同しないような表現方法が取られている。

#### 4.3 一般化を示すテイル表現

ここで少しテイル形の「客観性」という特性をよく示しているこの「受動態+テイル形」についてもふれておきたい。一般的な思考・状況・研究・定義・説・分類等を表現する際に論文等でも多用される形式でもある。論文においては

- 発表・報告・考察・研究・指摘・提案・分析・予測・予想・推測・検討・定義・構成+している/されている
- 考えられている・知られている・問題になっている・明らかにしている・言われている・行われている・
- 分けている・分類している・区分している

と一般的な研究成果についてはテイル形を使用し、論文作成者自身の研究に言及する時は

- ～と考える・～と思う・～と推測する

- ～と考えられる・～と思われる
- ～と推測される／できる・予想される／できる・推測される／できる  
示唆される／できる
- ～がわかった・～が明らかになった・～が確認された
- ～とすることができる・判断できる
- 分けられる・分類される・区分される・構成される

と、一般的研究状況と研究者自身の観察・成果がテイル形の使用の有無でものの見事に書き分けられる。「～と考える」→「考えられる」と「られる」でより客観性を表現し、更に《客観性》を持つテイル表現で事象が自己の範疇にあるものか、一般的なものかどうかを明確に提示し分ける。これらのテイル表現はアスペクト的な側面というよりも、テイル形の持つ、描こうとする事象をより客観的に提示するという性質が最も前面に出た表現と言え、こういった場合のテイル表現は、述べられている事柄がさらに進んで「一般化されたものである」ということの有標と捉えることができるだろう<sup>11)</sup>。

#### 4.4 物語《枠》としてのテイタ表現

テイタ形も基本的には過去のある時点の対象物(者)の状況、状態を客観的に描写したものであるが、新聞記事では、過去の事柄を回想し、物語っていく場合、その初めの《枠》設定としてテイタ形が使われ、その後、時系列に沿ってタ形等を使い、話を進めていくといった手法が数多く見られる。テイタ形には回想するにあたって、このような「まず物語の舞台としての時間枠の設定をする」といったような機能もあるのではないだろうか。

- (67) 医療や製造業など幅広い分野に使われるレーザー装置の開発で成長中のベンチャー企業、サイバーレーザーの関田仁志社長は、約3年前の苦渋の決断を思い出しながら、笑顔で語ってくれた。1999年秋、NEC光エレクトロニクス研究所の研究者だった関田さんは会社を辞めることを真剣に考え始めていた。慶応大学理工学部、東大大学院を経て91年にNECに入社。以来、一貫してレーザー技術の開発に取り組んできたが、半導体不況などで会社の業績は悪化。大規模な事業再構築により関田さんが



手掛けていた研究も中止されることになったのだ。……

- (68) 次第に、会社への執着が薄れていくのに気がついていた。10月に会社を辞めようと決心、同時に同じグループの部下に「新しい会社を起こさないか」と呼びかけた。3日後には3人の創業メンバーがそろう。4ヶ月後の2000年2月、辞表を出し、サイバーレーザーを設立。4月には慶応大と共同研究を開始した。
- (69) 「真昼の決闘」のゲーリー・クーパーは保安官を辞任して美しい妻との新生活に旅立とうとしていた。その日、無法者が待ちに戻ってきたことを知る。彼は躊躇なく闘いを決断する。
- (70) 町に入ると、建物の破壊はないものの、人間の気配が消えていた。毒ガスを避けようとしたのだろう、室内の隅に身を寄せている女性達の遺体があった。乳飲み子をかばうように胸に抱きしめたまま死んでいる母親も見た。

## 5. まとめ

以上談話レベルでは人称によってル形、タ形、テイル形、テイタ形が選択される現象に注目し、三人称ではテイル形、テイタ形が顕著に選ばれるという現象から、

- ・ テイル形はアスペクト的意味以外に、基本的に《客観性》という特質を持った表現であること
- ・ 又テイル形は話し手が描写しようとする対象物(者)の置かれている状況・状態なりを客観的に描写、提示する表現であると同時に、それをムードとして表現しうるものであること

を中心に考察してきた。

そしてここでの考察は日本語教育におけるテイル形の導入に際しても、有効ではないかと思われる。継続、特に結果の継続といったアスペクト的意味解釈による導入が果たして、学習者にとってわかりやすいものかどうか。むしろ継続にしても結果の継続にしても、テイル形というのは表現しようすると対象物(者)の発話時での状態・状況を、聞き手に対し、客観的に描写、提示するための表現と

捉えていけば、さまざまなテイル表現導入に対応できるのではないかと考える。

### 註

- 1) ・ここでのル形、タ形、テイル形、テイタ形という用語は『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』p40を基にしている。タ形は文末で使われる述語のうち「た」で終わるもの、丁寧形、普通形、否定形を含む。ル形は文末で使われる述語のうちタ形以外のもの、丁寧形、普通形、否定形を含む。テイル形、テイタ形も同様である。  
 ・ここで使う「動作・作用をあらわす動詞」といった動詞分類の際の用語は須田(2001)での用語を参考にしてている。
- 2) 工藤(2001)は形容詞の過去は〈現在と切り離された過去〉を表す場合もあるが〈現在に関係づけられた過去〉があるとし、この場合は非過去形に言い換えられるとしている。
- 3) しかし「お腹がすく・腹がたつ・痛む・しびれる・うずく・ぞっとする・うんざりする」の動詞のように第三者の生理的なことや、外からは判断できない内面的、精神的状態は当然のことながら話し手には把握できず、談話レベルではテイル形表現でもそれは表現できない。  
 彼は手がしびれている。…×  
 彼はその話を聞いてぞっとしている。…×
- 4) 佐藤(2003)は「青い目をしている」型構文はとらえられた対象の「根源性属性」の叙述を旨とし、「根源性属性」とは対象XがXとして成り立つ以上は常に有されるXの内在的な属性であり、Xの成立後に外的に付与される可能性のないものであるとしている。
- 5) 砂川有里子(1986)「日本語文法 セルフ・マスターシリーズ 2 する・した・している」くろしお出版 p26
- 6) 澤西(2002) p44「4.5 聞く・聞いた・聞いている」参照
- 7) ここで取り上げる新聞記事は毎日新聞・朝刊のものである。  
 (67)(68) 2003/3/17 (63)(65)(69)(70) 2003/3/18  
 (60)(61)(62) 2003/3/24 (64) 2003/4/3 (66) 2003/4/11
- 8) この記事は2003/3/19の東京外語大アジア・アフリカ言語文化研究所、黒木英充助教授の談話を基にまとめられたものである。
- 9) 2003/3/19「NGO ピースウィンズジャパン 大西健丞さん イラク問題とニッポン 私はこちら考える」

- 10) 2003/3/24 の「石郷岡健のグローバルアイ」
- 11) 林・米田 (2003) は留学生に対する日本語教育のため、論文や口頭発表に頻用される語彙・表現を明示することを目指し、その研究の一環として農学部4年次の卒論口頭発表序論部分 35 人分の語彙・表現を分析している。その分析結果を見ていくと
- 一般説 「～と考えている」「とされている」「とされている」
- 既知の事柄 「～が知られている」「明らかになっている」「ことがわかっている」
- 期待・希望 「期待されている」「望まれている」
- 研究の不備 「よい結果が得られていない」「～はあまり～ていない」
- 社会問題 「問題になっている」「心配されている」
- 利用状況 「利用はあまり進んでいない」「～として利用されている」
- とやはり一般的な事柄を述べる際にはテイル形が使用されており、一方自身・自研究室に関しては
- 自研究室成果 「当研究室では～した」「した」「～と考えた／ている」
- 研究目的 「～は～を目的とした」
- 研究行動 「～を行った」「検討した」「～した」「調べた」「試みた」
- 図表化 「～とこのような～が得られる」「これは～したものである」
- のように、テイル形を使っておらず、自分達自身が行った事柄と第三者の、あるいは一般的な事柄を明確に分離しているという事実が改めて浮き彫りになっている。そしてこの分析結果の自研究室成果の中に、主観色の強い「思う」「思った」「思っている」という表現はない。

### 参考文献

- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト——現代日本語の時間の表現——』  
ひつじ書房
- 工藤真由美 (2001) 「述語の意味類型とアスペクト・テンス・ムード」『言語』Vol. 30 No. 13
- 佐藤琢三 (2003) 「「青い目をしている」型構文の分析」『日本語文法』3巻1号
- 澤西稔子 (2002) 「伝聞における判断性、及びその特性——「そうだ」「らしい」「とのことだ」「ということだ」「と聞く」の談話表現を中心に——」『日本語・日本文化』28号
- 須田義治 (2000) 「限界性について——限界動詞と無限界動詞——」『山梨大学教育人間科学部紀要』Vol. 1
- 須田義治 (2001) 「アスペクトに関わる動詞の諸タイプについて」『国文学解釈と鑑賞』66(1)
- 砂川有里子 (1986) 『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ2 する・した・している』  
くろしお出版

- 寺村秀雄 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版  
\_\_\_\_\_ (1984) 『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版  
\_\_\_\_\_ (1991) 『日本語のシンタクスと意味 III』くろしお出版
- 橋本直幸 (2003) 「「と思っている」について——日本語母語話者と日本語学習者の使用傾向の違いから——」『日本語文法』3巻1号
- 林 洋子・米田由喜代 (2003) 「農学部卒業論文発表(序論部)の語彙・表現」第5回専門日本語教育研究会 研究討論会 発表要旨集
- 松岡 弘 (監修) (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 宮崎和人 (1999) 「モダリティ論から見た「～と思う」」『待兼山論叢』33号
- 宮崎和人 (2001) 「動詞「思う」のモーダルな用法について」『現代日本語研究』8号 大阪大学大学院文学研究科日本語講座

〈キーワード〉日本語の人称, テイル形のムード, 談話レベル

## The Characteristic of *TEIRU* Form Seen from Relation with Grammatical Person

Toshiko SAWANISHI

In this paper I considered the characteristic of *TEIRU* form other than aspect-semantics through the phenomenon that *TEIRU* form is chosen by grammatical person. The following conclusions were obtained by studying the discourse and the newspaper articles.

- In the verb showing operation and action, the emotive adjective, and the verb showing feeling, psychology, and a psychological state, *TEIRU* form and *TEITA* form are notably used in case of the third person. And also in the verb showing the characteristic, relation, and the evaluation to a thing or a person, *TEIRU* form and *TEITA* form are always used, so we can say that *TEIRU* form is expression which has fundamentally objectivity in addition to the aspect-semantics.
- *TEIRU* form is expression which objectively describes and presents the situation or the state of object. And also, *TEIRU* form can express a speaker's subjective mood.
- *TEIRU* form may serve as marked [of generalization].

The consideration here will be more effective in the introduction of *TEIRU* form and further *TEIRU* expressions than the present interpretation like "a state of resulting from the action" by aspect-semantic interpretation, and it will be much easier to understand *TEIRU* form rather than the above present interpretation.